京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●現今政界の七傑(下)

▲大隈伯 は伊公と同じく維新の元勳なるも公とは反對に常に逆境に在りて奮鬪しつゝあり其財政、外交に對する能力に至りては蓋し現代の絶品なる可く而して伯の長所は如何なる問題に逢着しても卓論風發而も聽者を魅せずんば止まざる底のものあり是れ政治家として先天的美質を具備せるもの憾むらくは常に逆境に在りしを以て今遽かに其旗下を率ひて一手に内閣を組織するの人才を缺き加ふるに伊公と同じく軍事上に其の怪腕を伸ぶるの餘地なきは伯の爲め惜しむ可し

▲伊東子 の名は今や漸く政界を遠からんとするもの〻如くなるも是れ皮相の觀のみ子や頭腦明晰、論議縱横、精力亦絶倫にして法律的智識を有し、常に虎視耽々政海の雲行を觀望しつゝあり而も年齒漸く五十有三、現代の政治家中最も春秋に富む而も尚は今日其の雄を發揮せざる所以のものは所謂大逆境に處して大勇猛心を奮ひ起す底の時處に接したることなく常に順境に處して精神的修養に缺ぐ所あり爲めに德望の之れに伴はざるとのある所以にあらざる歟子の伊公に於ける亦昔日の如くならざるものあり蓋し子は故兒玉大將と提携して大に政界を濶歩せんと欲せしも不幸兒玉伯逝去して志爲めに挫折せるもの〻如し然れ共子の對清政策の如き確に一隻眼を有し前途亦無爲にして終るが如きこと斷じて無かる可し

▲山本伯 の精悍なる蓋し當代其比を見ざる所、而して伯亦他年時機を得ば大に風雲を叱咤せんとの志あるは蔽ふ可からず然れども其勢力範圍は現在にては海軍部内に限られあるを以て内閣の首班を占むるに及ばゞ陸軍部内より不平の起るなき歟、蓋し海軍出身にして首相たりし人は只故西郷侯のみなりしも侯は元陸軍より海軍に轉じたるの人而して其人格亦自から異なるものありしを忘る可からず

▲寺内子 は既に臺閣に列する十年信望亦之れに伴ひ頭腦亦頗ぶる緻密にして陸軍省の厖大なる豫算も一として諳んせざるなしと稱せらる、又嘗つて臨時外務大臣たりし事あり部下を操縱する亦妙を得たるを以て總理大臣としての資格は先づ以て具備せるものと見做すを得べし然れども他の權衡上今遽に臺閣の首班たるを得べきや否やは聊か疑ひなき能はず

以上七傑が今後我政界に於ける色彩となりて大に覇を爭ふに至らば蓋し天下の偉觀たるを失はざる可し云々

●全羅南道の工業

度支部の調査に係る全南地方に於て將來發達の見込ある工業の種類左の如し

△棉布製造業 木綿は務安、咸平、羅州、榮山浦、靈巖、南平、綾州、和順、同福、光州、長城、谷城、潭陽、麗水、順天、康津、珍島等に産し年額凡五十萬圓と稱せらる就中榮山浦は其原料品たる棉花及藍を産するを以て將來棉布製造の中心たるに至るべし一昨年木浦に於ける移出額は木綿約四萬反價格四萬〇七百圓麻布約三万四千反價六萬八千〇八十二圓なり

△絹布製造 絹布類は羅州、綾州、南平、光州、海南等に産す蠶業は今や光州、羅州、海南地方に於て將に發展の緒に就かんとしつゝあり

△製糸業 既に養蠶發達せば之に伴ふ製糸業も亦光州、羅州地方に起るべし

△花莚製造 寶城、長興地方の藺草は細幹にして花莚の製造に適す目下製品京仁地方に輸出しつゝあり指導せば輸出品たるを得ん

▲竹器製造 羅州、潭陽、莞島等の竹にて竹器を製す羅州に在る竹器傳習所は巧妙なる製品をなしつゝあり一昨年木浦輸出の扇は一万九百餘圓なり

▲漆器製造 羅州、光州最も産す殊に光州の工業會社は職工五十八人あり

▲製帽 濟州を主とし靈岩方面に産す一昨年木浦出輸額二萬三千餘圓なり

▲編細工 帽子履物は濟州を主とし柳行李は現今産出なきも申觀察使は熱心に杞柳栽植勸誘中なれば數年ならずして市場に出ん

▲製糸 突山郡特に巨文島には野生の楮多し製紙業を起すものあるべし

▲製皮 現今本業者なし若し濟州島にて牛馬皮を精算せば有利なるべく一昨年輸出牛額は六万三千三百八十圓なり

▲製綿 木浦興業國に韓會社、韓國棉花株式會社南出張所、木浦繰綿工場、丸天織錦工場あり將來大工場起らん一昨年の繰綿輸出額は三萬五千餘圓なり

▲製油 木浦に白山製油所あり荏子、胡麻、荳麻、菜種、棉實等より搾油しつゝあり若し魚油を製せば其油糟は植物性油糟と共に肥料として可なるべく一昨年の肥料輸出額八千六百圓なり

▲釀造業 清酒は木浦、光州、羅州に各一釀造場あり木浦のは二百石光州は百五十石を釀す醬油も木浦、光州に在り販路全南の半に及べり

▲精米業 木浦に五精米所榮山浦に一羅州光州に各一あり尚ほ將來必要あらん

▲造船 木浦に舟板製造者二戸あり將來沿岸貿易發展の關係上少くとも和船形製造工場位は必要なり

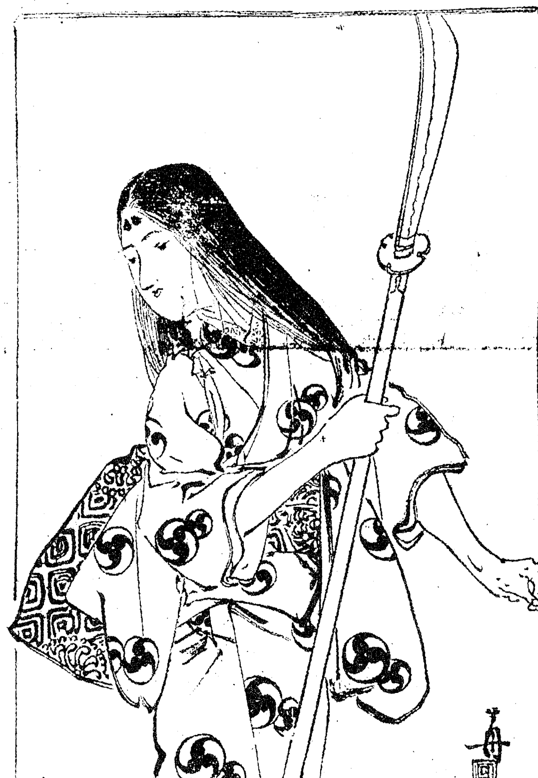
▲鐵工業 木浦、榮山、羅州に小規模のものあるも鋤、三叉、草苅等の普通及物農具を製するに過ぎず海に開港を控へ陸に農地を有する木浦は遠からずして完全なる工場を有するに至らん



第十席

伯山改 神田松鯉口演

此時彼の女は、悄然と打篌ひ 女「ヤヨ我が君、妾は近頃君が養ひを得居ります鶴にて候、君が手づから與へ給ふ餌を食して、嬉れしさに堪へず、此頃我が身の益々壯健になりしは、皆な君の厚き御惠みと、深く身に泌みて難有く思ひ居り侍る、夫れに付是非君に願ひ[illegible]きは、明日妾を伴ふて肥後國に赴き給ひ、阿蘇宮の邊にて妾を放ち給へ、左すれば妾が君より受けまゐらせたる、御恩の萬分の一を酬ゐまゐらするとも出來、又君には必らず艶やかにして、且賢き妻を娶り、宜しき後援者を得給ふこともあるべし、妾阿蘇宮の邊にて、一端別れまゐらするとも、久しからずして又南海の果にて、見ゐまゐらすべし、此事決して疑ひ給ふべからず」と、言ふかと思へば、夢は覺めた、爲朝は熟々と思ひ給ふに、我が得たる鶴、年を經て神に通じ、我に吉瑞を告げしに相違なしと、聊かも疑ひ給はず、翌日になりまして主人權守季遠の母屋に至りて宣まふやう 爲「今日は少々御相談ありて參り候、某近頃一匹の鶴を得候が、是れは曾祖義家朝臣の放ちしものにて、足に黄金の牌を付けたり、然るに昨夜靈夢に感じ、之を肥後國阿蘇宮に納めよとのこと、苦しからずば某彼地へ赴きたく存じ候が、如何のものにや御相談致すのでござる」と申された、權守季遠と云ふ人は、前にも申しまする如く、心狹くて爲朝の智勇を諱み恐れ、若し久しく我が方に置いたならば、遂には所領をも奪はれもせんかと思つて居る所でありますから、コハ僥倖なりと密かに悦び 季「イヤ、夫れは拙者に於ても、異存のある譯はござらん、阿蘇宮へ參詣あること、最も結構なことでござる、又た肥後には阿曾平四郎忠景の子三郎忠國と云へる豪族あり、領地も廣く、家も富み榮ね居れば、一度其人に面會なされても宜しかるべし、一日も早く立ち給ひて、一日も早く歸り給へ」と云ふ返事に、爲朝深く悦びて、やがて我が部屋へ歸り、野風を呼び給へば、彼の狼は我が主人に呼ばれて嬉れしさうに尾を振つてやつて來ました、爲朝は彼れの頭を撫でさすり 爲「コレ、野風汝と暫らく別れねばならぬことになりしぞよ、我れは明日より肥後國へ往かねばならぬことになつた、汝は予の留守中、紀平治の家へ預けるに依つて病に罹からぬやう予の歸りを待ち呉れよ」と、人に物言ふ如くに言聞かせまするど、野風は頭を垂れ涙を流して、領く如くでございます、茲で愈々支度に及ばれて紀平治の宅へも、野風を預けかた〳〵暇乞に參り、季遠が下郎二人を備つて鶴の籠を舁かはし、御自身は田舍侍が物詣する如き扮裝して、翌日肥後國へと赴かれました、さて茲で御話は二つに分れまするが、肥後國阿蘇郡に阿曾三郎忠國と云ふ豪族があります、阿蘇、詫摩、球摩の三郡を領して、家來も澤山あります、妻には早く別れ女子が一人ありまして名を白縫姫と云ひ、本年十六になられまする、姿も心も優しけれど武藝はなか〳〵と嗜みあり、眉は臥蠶の如く、眼は漆の點をうつたやう、口と云ひ齒と云ひ鼻と云ひ、此所が惡るいと云ふところがなく、艶やかなることは小野小町、衣通姫も三舍を避くべき有樣、婿にならう、嫁に貰はうと云ふ申込みは澤山にある、中には隨分國守、大名からも申込みもありますけれども、白縫は更に受引きませんが、是れ如何なる譯であるかと云ふに唯今も辨じまする如く、白縫は姿こそ風流温雅の御姫樣でありますけれども、其心なか〳〵勇々しく身の丈も五尺四寸あり、太刀を合せ柔を使ふ事のみを好み、平生腰元の女童を集めて長刀の一手くらゐは教ゐ居りまする有樣、智勇絶倫の者にあらずんば我が夫には持たじ、我が身を許さじと誓ふて居ることでありますからなか〳〵心に叶ふ男もなく、十六になつても色氣などは更にない、忠國も又唯一人の愛娘のことでありますから、掌中の珠と愛くしみ、蝶よ花よどころではない、天にも地にも換へ難しと思ふくらひであります。



제241호 1909. 10. 17.

京城新報

督勵の必要を認む

輿論を喚起すべし

西園寺前内閣は唯夫れ内部の消極的施設にのみ齷齪として、日露戰役後の經營として當然爲さゞる可らざる滿韓に對する積極的施設に冷淡なるが如き態度を示したりき、其實西園寺内閣と雖も滿韓經營の緊切なるを思はざるに非ざるも、元老に對する折合とか或は上院に對する政略等にて、多數黨たる政友會を後援とするにも拘らず、兎角其勢力の微弱なるが爲に、唯々其地盤を鞏固にすることのみに熱中し、甚だしきは郡制廢止案杯を政略問題として反對黨と爭ひたるが如き、殆ど蝸牛角上の爭に狂奔し、廿億の巨資を抛ち數萬の壯丁を犧牲にして贏ち得たる權利の遂行乃ち滿韓の經營をも放擲せる觀ありしのみならず、外政頗る萎微して振はず、國民は是を以て日露戰役の大捷を無意味に終らしむるなきかを懸念せり、是が爲に輿論は喧然として西園寺内閣の無能を責めたりき、新聞紙は一齊に内閣の更迭を促したりき、西園寺内閣は斯くして終に倒れたるは今尚は世人の記憶に新なる所たらむ。

桂現内閣は外政の刷新と財政の整理とを標榜して起てり、殊に戰後の果實を收むる爲に滿韓の經營に力を注ぐ可しと云はれたり、西園寺前内閣の不振に眉を顰めたる國民は以上の標榜によりて起てる桂内閣を歡迎したり、滿韓在留の邦人も一齊に桂内閣の組織を歡迎したり、果然帝國議會に向て小村外相は政府の滿韓に對する意嚮を聲明せり、曰く米國其他に散漫なる移民を送るは國家の得策に非ず滿韓に移民を集注すべしと、是れ滿韓經營の爲に待設けたる好個の政策ならずや、此宣言によりて桂内閣が如何に滿韓の經營に重きを置くかを推測して愁眉を開くの思ひあらしめたり、而して爾來其爲す所を凝視するに西園寺前内閣と等しく内部の魂膽に忙はしく、政黨の操縱實業家の御機嫌取等所謂蝸牛角上の爭に汲々とし雄大なる對外經營に比較的冷淡なるの觀あり、殊に最も緊切なる移民集注に關する施設の如きは唯宣言のみにて毫も實行せんとするの態度なし、[illegible]

桂内閣を鞭撻せざる可らず、之が爲には獨り在留民のみならず、在留の官憲も大に聲援し官民一致して之に當らざる可らず、斯くして帝國議會を警醒し且つ政府を鞭撻するに於ては庶幾くは滿韓經營の發展を促進するを得ん、今や韓國鐵道の布設に就て在留邦人の聲を揚げんとするに際す、余輩は此際在留官民は宜しく一致して滿韓經營の急を叫號して祖國の輿論に訴へて政府及議會を鼓舞振興せしむるの擧に出づるの必要を認む。

東京電報

▲東宮益々御健康

皇太子殿下には岐阜及び北陸三縣の御巡啓を了せられ御歸着後兩度御參内 兩陛下に御對顔具さに御巡啓の情況を物語りあらせられたるが長途の御疲勞もなく益々御健康に渉らせらる（十五日夜着電）

▲憲政本黨の大會

非改革派改革派の紛議落着歩調一致に決したる憲政本黨は廿八日午後大會を開くに決定

▲神社史料展覽會

内務省に於ては神社經營の參考及び一般の神社崇敬觀念養成の目的を以て神社經營史料展覽會を開設する計畫にて史料蒐集中なり（同上）

▲東京取引所總會

東京米穀取引所は來月五日午後臨時總會を開き理事長の補欠選擧を行ふことに決定したり尚ほ不日大株主會を開催すべし（同上）

倫敦電報

▲罷免公使の素性

日清協約を批難したる爲遂に罷免されたる駐清米國公使クレーン氏は元來極端なる親露主義者にして嘗に日露戰爭の際も多額の露國公債を引受け直接間接露國の爲めに盡瘁したる人なり今回同氏が端なく失言問題より免官されたるは露國の對清政策上一大打擊なるべしと觀測さる（十六日着）

雜報

●キ元帥の着京期

キッチナ元帥は廿九日入京の豫定なりしが旅程進行し一日繰上げられ廿八日入京の筈

●統監府司法廳官制

既に[illegible]諮詢を經て近く御裁可相成る可き統監府司法廳官制は屢報の如く統監直隷の下に獨立せしめ其定員は如左
長官一人（勅任官）參事官二人（奏任官）書記官二人（奏任官）監獄事務官一人（同上）判任官三十五人
其外豫算範圍にて雇員囑託員十名採用

●兩水道の歲入出

[illegible]平壤水道は愈々本年中に[illegible]水道亦來年六七月の交を以て[illegible]水道に在りては來年[illegible]水道に在りては來年九月よりに[illegible]すべきが兩水道明年度の歲入出豫算は平壤水道歲入二万七千八百六十八圓、歲出五萬九千七百十一圓、仁川水道歲入二万一千九百〇三圓、歲出二万八千三百六十一圓にして兩水道を合せて歲出の超過二萬八千三百〇九圓なりと云ふ

●鐵山買收に決定

韓國に於ける[illegible]部に於て就業中の[illegible]鐵山は[illegible]本政府に於て買收することに決定したるが尚我國に於ては[illegible]鐵山あるも此は有事の際に使用する爲めに平時は之れを貯蓄し居り現に清國大冶の鐵を仰ぎつゝあり此度の[illegible]亦之れと同一性質より出でたるものなりと

●來年度豫定線

來年度を以て全部竣工すべき既定治道線以外に於ける重要なる都會及停車場乃至駐在所への道路及び港灣を中心として交通の利便を計る爲めに隆熙四年より五年繼續事業として新たに要求されたる治道費總額は既報の如く四百十六萬四千八百圓にして來年度年度割八十三萬二千九百六十圓なるが今其治道豫定線を擧ぐれば左の如し

(線名)	(里程)	(線名)	(里程)
清津豆滿江間	三、五	城津吉州間	一一、〇
新浦北青間	一一、〇	咸興西湖津間	四、五
永興柳島間	六、〇	新義州龍岩浦間	六、〇
寧邊熙川間	四、五	安州孟山間	一九、〇
平壤永興間	五、〇	砂利院松禾間	一六、〇
利川原州間	四、〇	鳥致院清州間	四、五
驪州忠州間	四、五	金泉尙州間	一三、〇
大邱安東間	一五、五	天安洪州間	一五、〇
慶州浦項間	七、五	全州光州間	一九、〇
南原任實間	四、〇	長城潭陽間	六、五

●關稅警察の普及計畫

沿岸の監視不完全なりし時代に於ては密貿易盛んに行はれ食鹽の如き清國より蓬船に依り密輸入せらるゝもの多かりしを以て關稅警察の普及を計らんが爲め昨年度に於て蔚山、多々浦、長承浦、當馬山浦、統營に監視署を設け密貿易の防遏に努めたるが尙ほ今般六隻の水上警備船を西韓樞要の地に配置し以て關稅警察の完成を期すべしといふ

●香坂法務院長の榮轉

委任司法權の實施と共に法務院は當然廢止となる譯なるが今香坂院長の進退に就て聞くに高等法院長には渡邊現大審院長、檢事總長には國分現總長補せらるべくされば香坂氏を容るゝ高位置なきを以て同氏は過日長逝したる今村信行氏の跡を襲ひ大審院判事高等官一等に補せらるゝ事に決定し近く法務院廢止の勅令發布と共に發表さるべし

●水上警備船の好成績

今般廻航したる水上警備船の成績に就き勝本光濟號艦長より統監府附外波大佐に宛てたる書信に依れば航海中風力五の北東風に遭ひたるも石油艇の耐波力は頗る強く且つ艇の重心は機關室に在るが如く構造されあるを以て未だ曾てスクルーのレーシングたることなく其の成績極めて良好なりと

●沿岸警備船全部廻航

光濟號の曳引せる警務局に屬する五隻、關稅局に屬する六隻の警備船は一昨十五日何れも航程無事に麗水に到着したりと云ふ

●監督局長會議終了期

財務監督局長會議は十六日も引續き度支部樓上に開催し主稅局の提出案を審議したるが來る月曜日理財局の諮問を議し閉會の筈

●中部警察署廳舍改築

中部警察署にては廳舍改築工事開始せしに就き今十七日より中部貞善坊觀峴元日本駐劄軍第十三師團司令部跡に移轉すべしと

●韓人法官の服制決定

韓國人にして我司法官に任用されたるものゝ服制は日人同樣統監府服制を適用する筈

●韓全道の溜池數

溜池の多寡は農業水利の上に多大の關係あることとなるが今其筋の最近調査に係る全道の溜池數は如左

道名	數	道名	數
京城	一四九	黃海	一五七
忠北	五四	平南	二一
忠南	一九四	平北	一六
全北	四三四	江原	六八
全南	三一一	咸南	四五
慶北	一、一一八	咸北	九
慶南	二〇五	計	二、七八〇

●地方費取扱銀行決定

地方費取扱銀行[illegible]内部及び度支部との間に交渉中なりしが近日兩部の間に覺書を交換し[illegible]農工銀行をして取扱はしむる事に決定し度支部は一兩日中各農工銀行に對し命令書を交付すべしと云ふ

●咸鏡北道地方費課目

咸鏡北道に於ける地方費課目は地稅附加稅[illegible]地稅の百分の十なり而して[illegible]本稅と同時に徵收し國稅徵收に[illegible]規定を準用すべき旨公布されたり

●監獄制度組織の研究

委任司法權と共に設置せらるる監獄は本[illegible]監房制度に就ては日韓人分房組織を採用す可きや否や風俗習慣を異にする爲充分研究の上決定すべしと

●洪州警察署の移廳式

洪州警察署は此程愈々竣成したるを以て來る二十一日移廳式を擧行すべく警務局よりは松井警務局長代理として趙民籍課長列席する筈なりと云ふ

●民籍調査の情況

平壤憲兵分隊管内（平安北道及江原道の一部）に於ける民籍調査の情況を聞くに

▲調査の進行　同調査は九月一日より着手したるが各分遣所にては上等兵一補助員二或は三よりなる調査班二個を編成し受持面洞長を督勵し大体に於て最初の調査としては良好にして著き支障なく進行中

▲調査の難易　最初面洞長の示達其他不在等にて應答要を得ざる等種々困難ありしも之等は漸次經驗により矯正されつゝあり而て人家密接の處は調査の進行上頗る都合よく山間の避地は之に反し普通一日の調査戶數二十乃至五十にして七十に上る事稀也

▲人民の感情　調査に先ち面洞長を集め或は巡察の際民籍調査の主旨法規の要綱等につき豫め說示し置きたるを以て人民も大概之を了解し別に著しき惡感あるを認めず尤も或る一部分は重稅を賦課さるべし等其他の誤解より戶數人口を隱匿するものなきにあらざりしも漸く人民保護の必要上正確に調査するものにして敢て稅等に關係なきを知り中には自ら進んで準備をなし調査を待ち受くるものもあり成川管内の如きは從來無名なりし婦女子に命名して申出でたるものありしを以て試に其理由を問ひしに婦女子が惡者の爲めに誘拐又は拉去されたる場合等に搜査を願出づる際の如き從來の如く無名にては不都合なりと答へしと云ふ

▲調査の結果　實地調査の結果に依り戶數人口等二割乃至四割の增加を見るに至れり而して進行の割合は各分遣所共三ヶ月以內には結了するに至るべき見込なりと云ふ

●司法試驗の終了

法部に執行中の韓人司法筆記試驗終了し十八日口述試驗を行ふ

●敎育衞生會開會

仁川私立敎育衞生會總會は來る廿三日頃開會すべき豫定なりと

●敍任辭令

左の通り辭令ありたり

任內部技師（奏任四等）　岡田宗次郎
任檢事（奏任二等）法部事務官　松村新太郎
任檢事（奏任三等）同上　土谷榮太郎
任判事（同上）裁判所書記長　田中　忠見
任判事（同上）同上　安田慶二郎
任判事（奏任四等）法部事務官　中村　秀夫
任判事（同上）同上　臼井　水城
任裁判所書記長（奏任三等）法部繙譯官兼裁判所繙譯官　村上　唯吉
任判事（奏任四等）警部　鎌田　三郎
任判事（同上）警視廳警部　福田　豐吉
任判事（同上）裁判所書記　四位　義正
任判事（同上）上　境　誠之進
兼法部事務官　檢事　横村新太郎
兼法部事務官　同　土谷榮太郎
補宣川區裁判所判事（七級）　判事　岡　軌政
補盈德區裁判所判事（七級）　同　森川　正任
補鏡城區裁判所判事（八級）　同　竹村友三郎

●三角航路絕望か

清津元山敦賀間を航行せしむべき三角航路に就ては其豫備調査として曩に遞信省より若林書記官來韓し實地調査する處ありしが同書記官の意見によれば該航路開始の結果北韓及大阪間の運輸は四日間に短縮し是を釜山經由に比すれば一日速達の利益あり然れども運賃に到りては格別の逕庭なく且つ日韓貿易の現勢は未だ一日の速達時間を爭ふ程急要なるを認めず殊に北韓と吾が北陸との關係は直通航路の開始を要求する迄に密接ならざるを以て結局其必要なしと言ふにあり然れば該航路の運命は之を推知するに難からざるが之を聞ける元山居留民は大に憤激し航路又は鐵道の如きは開拓上の急先鋒となる可き性質のものにして必ずしも狀勢の必要のみに迫られて着手す可きものに非ず然るに漫に現狀の幼稚を口實として此有益なる航路開始を拒まんとするは遞信當局者の妄も亦極れりとて[illegible]き居れる由

●公醫制度設置の必要

公醫制度は臺灣に於て始めて是を施行し良好なる成績を收め得たるものなり然るに其最も必要なる可き韓國には曾て其議にも上らず雲烟過眼視せらるゝは實に遺憾の極みなり思ふに韓國の衞生狀態は恰かも龍頭蛇尾の觀を呈し中央には博士學士を多數網羅し輪奐宏壯の美を極めたる彼の大韓醫院あるも地方に到りては何等其機關の設備なく唯だ吾が居留地に公立私立病院の存在せるのみ斯かる有樣なれば一朝土地整理局の如き大事業を開始し數百の調査班を各地に派遣するも彼等は病魔の不幸を擁保する能はず常に危懼の間に驅馳せざる可からず況んや韓民に至りては更に一層憐む可きものあり殊に醫は治民の要鍵にして拓殖上の先發隊とも云ふものなれば此際公醫制度の設置普及は最も急務なりと某衞生技師は語れり

●仁川市街の測量着手

仁川市街圖は未だ正確に調査せしものなかりしが一兩日中より度支部より日高技師を出張せしめ各市街道路の測量に從事すべし

●鳥致院運動員の入京

湖南鐵道布設運動の爲め鳥致院居留民總代西頭謙吉氏は十五日入京不知火旅館に投宿

●關稅引下の運動

豫て韓國日本人商業會議所聯合會は聯合會の決議を以て關稅改正及び穀物輸入稅引下に關し本國政府に請願せる所ありしが一昨十五日貴衆兩院議員の重立たる者各政黨本部に向け同一意見開申書を發送したりと

●京城內の各宗教

目下京城に駐在せる邦人經營の各宗教其筋の調査左の如し

出雲大社敎	開敎師	二人
眞宗大谷派	布敎師	十一人
同　本願寺派	同	六人
淨土宗開敎院	同	八人
眞言宗高野派	同	二人
同　醍醐派	同	一人
日蓮宗	布敎師	二人
日本キリスト敎	同	二人
基督敎組合派	同	一人
日本メソヂスト敎	同	一人
天理敎	同	九人

●倉富次官の招宴

倉富法部次官は十五十六日に亘る司法廳準備會議の終了せるを以て渡邊大審院長、國分檢事總長京城平壤大邱の三控訴院長並に三檢事長中川檢事長松寺、安住、山邊三書記官を天眞樓に招き十六日午後六時より晩餐會を催したりと

●李首相隊長訪問

曩に暴徒に拉去されたる李總理の甥が憲兵隊の搜索に依り無事歸還したるを以て李總理大臣は十六日榊原隊長を訪問して厚意を謝したりと云ふ

●鈴木局長の招宴

鈴木司稅局長は昨十六日午後六時目下入京中の各財務監督局長を官舍に招待し晩餐會を催したりと

●三宅博士の入京

理學博士三宅驥一氏は去る十五日入京し天眞樓に投宿せり

●局長の[illegible]視察

[illegible]入京中の各財務[illegible]に出張し[illegible]を視察する筈なりと

●萬年社長の歸社

大阪萬年社長高木貞衞氏は曩に外遊中の處此程歸社せりと

●鹽野判事の赴任

江華島裁判所判事鹽野良晴氏は昨日仁川を經て同島へ赴任せり

●戶叶薰雄氏歸期

東上中の大韓日報社長戶叶薰雄氏は廿四五日頃歸京の筈なりと

●岡十郎氏の退京

水產組合長の同氏は入京中の處十五日新義州に向け出發したり

●赤穗時圓氏入京

忠州農銀支配人の同氏は十五日入京南山町三日月旅館に投宿す

●富家正義氏退京

度支部參政課技術部長の同氏は原金旅館に投宿中の處一昨退京

●木原牧師の歸京

琉球地方に招きに應じて傳道の爲め出張中の同氏は一昨夜歸京

近事片々

▲桂首相の國際新聞協會員招待會に於ける伊藤大隈の演說は其對照最も面白かりき

▲伊公は唯何等政略的の意味なき漫遊と辯じ隈伯は飽迄政略的旅行なれよと希望す

▲現時の政界に於て相撲番附を作れば差詰伊藤大隈は橫綱桂と西園寺は大關の格也

▲關脇は誰れ巳代治と荒助は如何或は小結と云ふ格かも知れぬ小結には原敬犬養有

▲清浦大浦末松金子杯前頭として筆頭のものか山本寺內杯先づ張出し大關の部類か

▲山縣は張出し橫綱とするよりも勸進元か行司たるが適當か將た四本柱の雷の格か

▲松方後入齋に至ては友綱か小車か井上侯は適當の役割なし張出橫綱には元氣衰ふ

▲後藤鑾爾は小結たるか前途大關たるの貫目ある其取口には隨分辛辣なる所がある

▲曾禰大人も何となく大關相撲の資格ある樣に見へる其實力は近き將來に現はれ

▲幕下でも一寸手取がある竹越三叉貝淵博士花井卓杯早晚幕內に突進する價がある

▲大石正巳尾崎學堂松田正久杯は前頭の幾枚目に相當するや時を得れば小結の格か

▲長谷場鑾晉大岡硯海元田肇加藤高天角田竹冷仙石貢臼井哲夫杯は貧乏神の邊りか

▲杉田定一栗原亮一杯と來ては早晚廢業して席亭の主か料理店の亭主となる位が落

▲平田東助安廣伴一郎等は地方巡業の大關か本場所の關取としては薩張人氣がない

▲邦人大臣任用說の一說に閔宮相學相となり高法相が宮相に度相には邦人ならんと

▲果して任用說が斯く役割をする迄に進步せしや屁の樣に姿が消へ失せねばよいが

▲英國藏相ロイドヂョージ氏の[illegible]として起る頗に上る敵味方[illegible]

▲上院の反抗に些とも恐れず豪放に其所信を吐露して憚からざる態度は眞に痛快也

▲後藤遞相と巡査の事件は案外に世の注意を惹くに至る新聞紙は一齊巡査に同情な

▲元來高官の擧措は概して驕慢の事多しこれ豈後藤男一人のみならんや深く可戒也

吉凶鑑

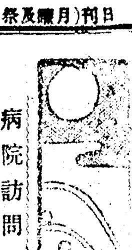
十月十七日舊九月四日[illegible]

[illegible]

[illegible]として御揭載の次第も有之候處小宮は本件に關し何人にも右樣の事を申したることは無之候也

隆熙三年十月十[illegible]日

農商工部大臣秘書官　張斗玄　印



京城婦人病院

病院訪問記（二）

十月十六日晴。午前十時半社を飛出して北米倉町の京城婦人病院を訪ふ、朝鮮式の煉瓦塀に「ドクトル、メヂチーネ工藤武城」の門札厳しい門を這入ると少し勾配になつて右手に病室を觀て玄關に抵る以前某外人の屋敷だけあつて樅、櫻等の雑木が生ひ茂つてベンチの設けもあつて恰然小公園を為して居る門から玄關に抵る兩側には三百餘鉢の菊花が奇麗に列べてあつてぷんと香が身に襲る刺を通ずれば今患者の診察最中であるから助手も居らぬから午後來て呉れと立派にことはられた執念も午後だから一寸待ちつ〻…下女に導かれて應接所にて待つ、軈てほいやつに縦縞の袷に袴を着けた三十四位の男が靜かに戸を排して來た、即ち院長工藤氏其人と知られた氏は語つて曰く、目下京城で婦人科専門の病院は當院が一つである、患者は英、佛、獨、ポルトガル、日、清、韓の各國人を網羅して居るが西洋人の患者は外交官、領事官の夫人が多い、韓國人側の患者でも地方の醫師の紹介で來る患者數は矢張日人は僅少なものだが、患者であつて韓國婦人を輕視して居るのに自分が從來婦人病を診て見ると最も惡性の患者で而かも韓國婦人は病醫師にはかゝらぬ惡傾が取れぬやりきれぬ、婦人病院では他の醫師が多く來るものだ。四人にしか過ぎない、醫師の組合は韓國醫學會を催して四回例會を催して日本人側では京城で機關雜誌を發行して居る、一般韓國婦人…朝鮮に二號から九號…因に氏は東都婦人病院に就て見て呉れとて…の助手を務め後獨逸…優等を以て卒業せし…を研究し…獨逸留學…獨逸人バアリアに…ブルヒ大學に學び…の組織學及顕微鏡學の…應接所には…狹きまでに飾り一見直感せしむ（ふじ子）

●駈落者の死に損ね

……日進樓の靜子と銀筋▲富平の韓人方で毒を仰ぐ▲毒の功が無いので逆戻り……

仁川日進樓の抱娼妓靜子事倉田よし（二十）が去る十四日鐵道廳の銀筋大久保米次郎と手に手を執つて駈け落ちせし事は昨紙記載せしが兩人は仁川より徒歩にて富平に出で韓人某方に身を寄せ行末の事共案じたるも荒き浮世に何時迄も日蔭の身の過ごし得べしとも思はれざればイツソ死んで未來を樂まんものと豫て靜子が携へたる局部洗滌用の昇汞水を服用し互に抱合いて毒の功驗を待ちしも更に何等の効果無きにぞ百計盡き果て〻再び仁川へと逆戻り豫て知合なる宮町三丁目口入業日之出屋事伊藤恒太郎方に至り事の仔細を打ち明けしに恒太郎は捨て置かれじとて早速宮町派出所へ訴へ出てしかば直ちに巡査出張一應醫師をして診察せしめしに幾きに服用せしは眞の昇汞水に非ずして何等の故障無かりしかば靜子は樓主に引渡し米次郎は不心得を諭されて互に心を後に殘しつゝ泣き別れに別れしとは近來の喜劇なりき

●仁川海岸の騒動

▲八百の人夫入亂れて格闘▲人夫長等の袋叩きとなる

仁川の勞働組合は從來監督廳一名轉運社のみにて總べての人夫供給を一手に引受け居たりしが今回新たに日韓勞働組合なるもの起り互に反目の姿となりしが同地の韓商金韓郷と云へるは先般雜貨陸揚げを公平に兩組合に四十五名宛受合はしめしかば日韓勞働組合にては百名計りの人夫を使役し昨日午前九時揚陸に着手せしに監督廳側にては約六七百名の人夫を繰出し勞働組合の妨害を爲し同地海岸斗量場にて約八百の人夫入り亂れての大格闘を演じ中にも勞働組合の人夫長三名は袋叩きに逢ひたるを仁川署より警官多數出張し被害者加害者共數十名を引致し目下取調中なりと由來當地人夫は一手に占有せられ荷主の不便尠なからず爲めに今回反對に一組合を組織せしを從來の暴利を喰かるゝを恐れて斯くの如き亂暴に及びたる監督廳側に對して嚴重の處分あらんことを一般に希望し居れりと

●客引と赤帽の賭博

一昨日の午後一時頃仁川支那町二丁目の人力車駐車場に於て賭博の最中折柄通り合せる警官の爲め取押へられ證據品諸共本署に引致せられたるは仁川花房町二丁目菊屋旅館の客引を務むる太田助太郎及び仁川驛の赤帽戸田寅助の兩名なりと云ふ

●猛虎韓家を襲ふ

九月十六日午後十二時頃江原道春川郡北嶺面下乾川物安里黃敏涌方に猛虎侵入して敏を咬へ去り約半里の山腹に同人の死体胴体上部を食ひ殘し置きたるにぞ附近の住民は戰慄して夜間外出をなさざる狀況なりといふ

●小貞取押へらる

仁川敷島遊廓朝日樓の抱娼妓小貞拍子は嚢に建築所仁川出張所員の佐々木某と手に手を取りて隨德寺を極め込みたる儘爾來行衞不明なりしが此程大坂に潜伏し居りたるを發見し近日中連れ戻さるべしと

●日本醬油取次所

仁川なる日本醬油株式會社にては從來キツコウ龍キツコウ萬醬油の取次販賣を爲し居りしが今般更に●萬上印●味淋●丸御印●酒酢をも取次販賣を開始せしが其特約店は當地本町六藤富國太郎同田中支店南大門二遠藤廣吉仁川本町四中野常次郎同河野竹之助宮町二奥田醬油部同町一吉川総太郎龍山元町一上野政次郎等の各商店なりと云ふ

●敷島遊廓の撿梅

仁川敷嶋遊廓の抱娼妓八十二名に對し一昨日定期撿梅を行ひたるが局部に異狀ありて入院せしは高砂の濱松一名にして洗滌を要するもの五名ありと

●窃盗犯の處罰

仁川署刑事の手に捕へられし元仁川郵便局員たりし長崎生れの堀川米一（二七）は一昨日理事廳公判の結果窃盗犯に依り懲役一年に處刑さる

●住の江の病死

清月樓抱娼妓住の江は豫て病氣の處去る十三日遂に死亡せりと云ふ何はう哀れ深き事ならずや

●君香拍子の廢業

仁川朝日樓支店の抱娼妓君香は一昨日廢業せり

●一昨夜の新町

遊廓の色餓鬼は總計七十八人にて消費高五百一圓七錢なり

●本日の説教

▲メソジスト教會　旭町二丁目の同教會にては本日午前九時より日曜學校、聖書研究同十時より禮拜説教（木原牧師）午後七時より感話並に傳道説教（同牧師）參聽隨意

▲旭町の基督教會　にては午前十時より『犠牲の生涯』と題する某氏の説教ある筈也

▲長谷川町本願寺　にては本日午後七時より眞宗は何故爭はざるかと題する說教ある筈にて何人にても參聽隨意

▲日之出町の教會　にては午前十時より禮拜說教基督の權威（米澤牧師）夜は休會す

▲菊便り

月の秋は老けたり今や全く菊の秋と相成り申候此の時に於てこれに就き耳にしたる所を報導申上候事強ち無用にも非ざるべくと存じ候▲新町遊廓内は各樓とも殆んど競爭的に培養陳列致し居候へども何分御承知の通りの事とて家族同伴の御遊覽には適せず遺憾の次第に御座候▲此の點は各樓主とも承知罷在何人も憚りなく出入するを得べき樣各樓合同して陳列場を梅の家傍の空地にとの說も有之候ひしが如何なる都合か沙汰止みとなりしは此れ又遺憾の事に存じ候▲敢て此れに發落したる次第にもあるまじく候へども京城樓は來る二十日より北米倉町嚴俊源氏の別邸に於て錦華園の名を以て陳列諸君子の御縱覽を願ふ都合に取極められたりとの事に候▲曾主の申すには狂咲、咲分等の種類は他に見るを得ざるもの多々有之候との事に候併し昔しから手前味噌は少々辛きものゝ由に御座候▲而して京城樓へも此所に陳列せるだけは全部依然陳列致し置候との事に候▲皆春樓主の自慢は長生殿、榮樂の園、乙女の姿、中津の國等なるが就中中津の國は直徑は尺二寸以上の大輪との事●新輸入船來種にはプエラス山、ナイアガラの虹等ありと申しても素人鑑の事なれば恥かしい次第に候と女將は恥かし相にもなく申し居候由來謙遜は一種の自慢に候へば滿開の曉は千紫研を競ひ萬紅艶を誇るの美觀あるべしと噂さ致され候▲此の外井門本店は目下數百金を投じて大々的陳列の計畫中に御座候▲總じて見頃は茲五六日の後なるべしと聞及候（むら）



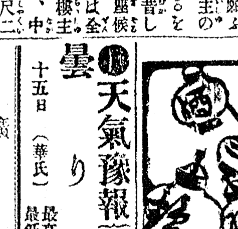
◀平民文庫▶

▲人力車夫君を情夫に持つて有名なる皆春樓の白玉と云ふ甘い名の妓は十五日の晝過ぎ燒栗を嚙りながら妾の情夫は統監府の○○さんよと怒鳴つて居た始末にならぬ女だ哩△此に引き換へ同樓のた職女郎玉春は感心なものだ字を書かしても茶をたてさしても琴でも三味線でも裁縫でも何を行らしても立派なものだ木登りさ〻錄立は何うだか知らないが併し面はマヅイ……ト云つても十人並よりは少うし美くない、が女房にするには持つて來いの誂へ向きだ△同樓の少將も惡くはない小松は女郎だよ仲居の關東豚は棄てられた亭主の惚氣を云つてる日出度い女さ△ト云つても怒るべからず俺等の所爲おやない三年鳥の所爲だもの（凪間子）▲我社にては十七日社員一同の觀楓會を催しますとのことゝ十六日決つたので嬉しくつて堪りません皆さんに吹聽する（小僧）▲西小門通りに又小料理屋が一軒殖れた不景氣だなぞと云つても偉いものだ（通行人）▲京城で高價いものは家賃と宴會費だ宴會費は何うでも善いとして家賃は引き下げる必要があると思ひますれ役人方は無代の家に這入つて御座るから上等がれ金の澤山取れない私共は實に困却します（小商人）▲擔夫の權いには驚くよ（花子）▲明治町の共同便所の前の八百屋の妻君は西小門通りの元東京樓に居た新駒とか云ふ女に違いないが開けば其の當人は元々亭主の爲めにアー云ふ勤めをして居たのだとか亭主が八百屋を初めたに就いて廢業したのだ相なで此の頭は異つ黑になつて働いて居る感心なものだ（近所の男）▲京城の歌留多界は目下非常に旺盛だ、かすみ會、それから會、龍山に淡江かるた會、外にもあるだらうが聞へたるは先づ此れ等である一つ合同して歌留多大會を開催せられては何うです（贊成子）

●天氣豫報（自十六日午後六時至十七日午後六時）

曇り

十五日（華氏）最高溫度 六四、九　最低溫度 三七、九



本町五丁目　三一館宵鶴

十月十七日舊九月四日丙戌たつ△一白 不利不達の日創始改易の事商賣旅行等凡て効なし△二黑 婚姻集會結社其他すべて凡て義の爲め進まざるべからざ…不得要領の日なり新事見合せの事旅行…△…相談等効なし△五黃 非運の日なり商賣は近親の爲め出損若くは紛紜あり…快欣の日なり進みなす事効を遂ぐ但し家庭内に小波瀾起らん△七赤 錦衣昇殿に譬ふ△一白 十月十八日舊九月五日…盜害横領を防ぎ保證引受の類を避…の事に世話事又は出損の…ありて△六白…裁判相談等因て取引上に…

●取消 …十六日發行當新聞雜報欄内…式法律と農相と題する記事中秘書官の談話…

各種洗濯石鹸 專門製造販賣
用途
陸軍、鐵道、郵船、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用
京城旭町二丁目 (電話九七三番)
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●募集 敏腕なる外交員至急入用希望者は直接京城本六滑稽新聞社へ來談あれ

●求職 年四十五確實なる身元保證人あり如何なる事務をも厭はず姓名在社(四五五)

●少年入用 十七八才少年入用 大和町一丁目 爲春堂醫院

職業あり十圓の資本にて一日一圓以上の職業有希望の方は御來談あれ 黄金町三番戸 國松商會

小僧入用 大和町一丁目 藤井出張店

ケー生君に告ぐ匿名にては取扱不申候 係

●卅七年出の醫學得業士内科小兒科及小外科に經驗あり病院醫院或は公共の醫院へ雇はれたし 氏名在社(四六〇)

●小僧入用 京城大渓門前 遠藤洋服店

●女中入用 三十才前後の婦人にして裁縫の心得ある人を求む 旭町一 旭町競賣所

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建二間温突外八疊外三間井戸附右今月下旬より貸したし家賃面談 氏名在社(五六四)

●薬用銃十號又は十二號至急讓受けたし 龍山老松町 上田病院

●電話 未設(不日かゝる分)讓渡したし 氏名在社(四六二)

●貸家 官吏向二、三、六、八疊瓦葺平家一棟湯殿物置附鳳門桝有家賃三十圓 氏名在社(四六一)

●醫院讓渡 京城市内にて有望の地御希望の方は至急申込あれ 氏名在社(四六三)

廣告

統監府御用
宮内府御用
軸物表装、金銀屏風、
額面襖、壁張、天井張、
雨戸障子硝子戸、
其他表具、建具一式
表具 建具 商
京城駱町(電話一二八七番)
石川辰次郎

入院隨意
京城西小門通六番戸
菅醫院
電話九六〇番

診察時間
自午前 至午後七時
毎月 一日 十五日 休業
本町二丁目
中村耳鼻咽喉眼科醫院
院主 從七位 醫學得業士 中村健吉

待合

諸紙
文具類
和洋帳簿
其他雨傘並ニ印入傘御注文ニ應ス右精々安價販賣可仕候多少ニ不拘御用命仰付被下度候
美濃久紙店
京城南大門二丁目



美術書畫
襖、壁、天井張
京城壽町二丁目
桂萬吉

●土耳古金口莨 直輸入大販賣●
本社はトルコ最大實製造會社にして其製品は原料精選其風味は良好無比なれば夙に世界各國に最多の輸出をなし好評を以て迎へられつゝあり御小賣にも廉價に販賣仕候
京城本町四丁目角 デーヱス、パヂリス會社出張所
仁川港本町通 仁川代理店 頴原兄弟商會



京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島專藏
(電話四百十二番)

胃腸消化新劑
澱粉消化 ヂヤスタリン
蛋白脂肪消化 ヂゲスチン
錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢 散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢
錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢 散錠一オンス入(一瓶)一圓四十錢
右は最近内地に於て急激の需用を來したる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候
各地有名なる藥店に於て販賣す
●大韓醫院御用藥
韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

原料直輸入廉價調製各種木形新着
弊店の特色御注文品と否とに不拘材料は精選しスタイルは嶄新い粋を集め常に諸彦の御滿足を得皆地御試用被下度候
●京龍間は御一報次第店員を派し地方は御一報次第見本帳御送附可仕候
深ゴム靴 特價 六圓五十錢
アミ上靴 五圓五十錢
淺ゴム靴 五圓五十錢
京城本町一丁目(郵便局前) 東京 北村支店 店主 磯部廣吉謹告



熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)
京城旭町一丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮
(電話三九八番)

●祝開業三週年●
江湖御客樣方の御引立に預り日ましに繁榮に赴き誠に難有仕合に奉存候就きましては本年は恰も開業三週年に相當致候得者自祝の意を表する爲め當分の内左記之通り特別大勉強仕候間賑々敷御光來の程伏して奉待上候あらく可祝
會席一膳附 並等 壹圓 上等 壹圓半 特等 貳圓
但御酒は上記代金の内にて召上り次第
尚々十人以上の御宴會は御人數に應じ花代なしにて相應の藝妓をして御座敷を斡旋致させ申候
京城大和町三丁目
電話七三五
梅の家

表装一切
襖 製作販賣
原料を精撰し技術審美的にして價格亦頗る廉價なるは弊堂の特色!!
京城明治町二丁目
古香堂主 山本平治

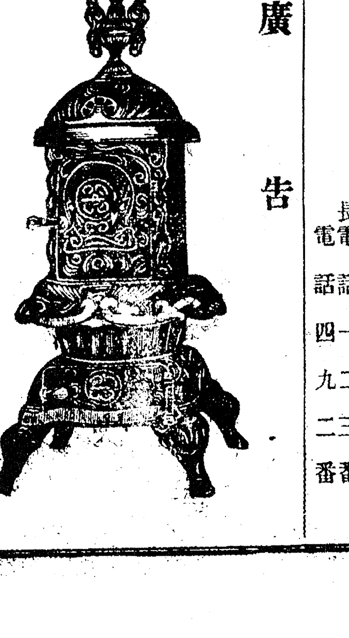
營業科目
活版、石版、銅版
各種印刷
帳簿裝釘、書籍
製本及ビ印刷
諸材料販賣
日韓印刷株式會社
遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候
本社 京城明治町三丁目 電話三二三番
出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

明治廿年七月創立
東京火災運送保險株式會社
京城代辦店 本町四山口呉服店 電話九番
資本金一千萬圓 事務所 京城本町二ノ三 電話一〇六〇番

蒸氣消毒 牛乳
京城大和町一丁目
平山牧場
電話一三三

特約販賣 自製
大 命 薫
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、の精酢、穀物麺類、銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候
(電話二五一番)
大上商店

京城南山町三丁目(元日本人倶樂部亭)
京城ホテル
長電話一二三
電話四九二番

暖爐各種
廣告

煙突取付並ニ煙突掃除大勉強
京城本町五丁目角一番戸 電四七一番 馬木勇吉
龍山山下町兵器廠官舍裏入口 電三六四番 馬木支店

綿
わた綿ワタ
たやすくうります
ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類
京城明治町一丁目四ッ角
卸問屋
唐川商店
電話六一二番

精實を旨とし大勉強仕候也
宮内府御用
博物館御用
古今美術書畫表装
金銀屏風襖洋式天井張
表具師 松月堂
京城本町二丁目
電話千三番

開業御披露
弊樓儀今般松榮樓跡にて開業致候に付ては客室の裝飾は勿論萬事改善を加へ最も懇切に御扱ひ可申候條何卒賑々敷御來遊被下度伏て奉願上候敬白
京城新町 清進樓
電話二三三番

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主醫學得業士 中島貞信

牛乳
消毒 特選御用
京城 荒井牧場
電話一〇五六

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 電話二十番 郡回漕店
●釜山長崎門司神戸行 山東丸 十月二十四日正午
●大連、大沽行 ?沙丸 十一月十八日正午時
●大連、大沽行 ?田丸 十一月九日午前四時
●大連、大沽行 酒田丸 十一月四日正午時出
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 十月二十七日午後出
御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎艀ニテ御送迎リ可申候送迎艀ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●購讀料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢 廣告五號活字十九字詰一行金六十錢 ...
發行兼編輯人 高木久太馬
印刷人 鈴久一郎
京城西小門通
發行所 京城新報社